

# スーパー御庭番の達人たち... ④

ユーザー様のハイレベルな仕事ぶりをレポートするこのシリーズ、今回は、2日間で「もう教えることはない」と研修スタッフを驚かせた達人の美しい石張り・レンガ積みテクニックをご紹介します。

## 「石の質感は重要だから」とリアルな石張り、レンガ積みこだわる

和歌山県和歌山市  
コーケン建設  
設計担当・濱地啓太様



「スーパー御庭番の達人」濱地啓太様のお話

### ないものはつくってしまいますね。工夫しながら描くのは楽しいし

スーパー御庭番は、とてもわかりやすく使いやすいですね。最初の2日間講習で「これなら行けそう」と手応えをつかみ、翌日から取説を見ながら実際に使い始めました。それから1年半。今では普通の図面なら2~3時間で描けます。

御庭番はパーツも豊富にそろい、プランの自由度も高いですが、ないものもあります。たとえばタテ格子や立水栓。なければつくるしかないで、線を連続させたり、細かいパーツを組み合わせたり、あれこれ工夫しながら自分でつくりますね。また、大きな天然石を張ったり、段差とアールのついたレンガ塀などは、いっぺんに入力できないので、1つ1つ入力しています。面倒な作業になりますが、質感のあるものをつくりたいと、ついこだわってしまうんです。御庭番で効果的にプレゼンテーションするコツですか？ まず、木や植物をしっかり植え込むこと。現実感がでてくるし、華やかな雰囲気になります。それから、どこに日が当たったら美しく見えるかを太陽の位置を決め、なおかつ影を薄くすると、ソフトできれいな風景になりますよ。



御庭番で描いたプランをもとに、熱心に検討を重ねます。



代表・東孝洋様

コーケン建設 代表・東孝洋様のお話

### お客様の要望もあり1年半前に導入。「立体的なイメージがわく」と好評です

きっかけは、お客様によく「パースのイメージを見せて」と頼まれるようになったことですね。手描きでパースを何枚もつくるのは大変ですが、御庭番ならさまざまな方向からのパースをすぐに出せる。それに写真のような鮮明な絵に説得力があります。また施工業者からも、図面だけでなくパースがあったほうが立体的にイメージしやすく、施工がしやすくなると歓迎されています。当社は5年前に創業。軌道に乗るにつれ忙しくなり、手描き図面では時間的にも厳しくなってきました。今後は私やもう1人のスタッフも御庭番をマスターして、第2の達人を目指します(笑)。

左から濱地啓太様、代表・東孝洋様、杉本達哉様。平均年齢28歳の若くてパワフルな会社です。



## 達人のテクニック・その1

### アール+段差のレンガ塀はレンガを1段1段積んでいく

レンガの塀は、段差があってもまっすぐでアールがついていないか、アールがついていても段差がないか、そのどちらかなら、御庭番で普通に設定して簡単に描けます。しかしアールがついていて、しかも段差がある場合は、1段1段積んでいきます。当然、目地も合わせなくてはなりません。さらに、このプランのように、ところどころに設けた小窓穴は、別に部分パーツをつくってはめ込みました。



アールの曲線と段差のついたレンガ塀。変化に富んだ美しいフォルムを御庭番でリアルに表現していますが、これはかなり根気のいる、難度の高いテクニックです。

## 達人のテクニック・その2

### 大きな敷石はブロックの素材を使い1枚1枚張って目地も入れる

たとえば、600mm×300mm角の御影石の敷石。御庭番に御影石のブロックはありますが、小さいので使えません。それで、そこからパターンをコピーして大きい石をつくり、1枚1枚敷き込んでいきます。ただ敷き込むだけだと平板になって質感が出ないので、目地をちゃんと10mm取るのがコツ。でも目地を入れる分、作業が面倒になります。まあ、でも、手間がかかるといっても、最初に何列かパターンをつくってしまえば、あとはコピーすればいいので、そんなに大変ではないんですよ(笑)。



600mm×300mmの御影石を敷き詰めたアプローチ。既存にはこの大きさがなかったので、新たにつくって1枚1枚敷き込みました。黒い目地が効果的で、素材感にリアリティをもたらしています。



門の入り口のステップと、その両脇の石張りも、既存のパターンがないので、目地を入れて1枚1枚描いたもの。素材感が際立ち、石造りの重厚感が味わえます。

## 達人のテクニック・その3

### 塀+土間のパーツを組み合わせて新しい立水栓をデザイン

立水栓はバリエーションが少ないので、たとえば塀のパーツから立面部分を、土間のパーツから平面部分をもって組み合わせ、自分でオリジナルデザインをつくったりします。それにつくばいのパーツを乗せて、水栓をつければできあがり。「こんな欲しいなあ、でもないなあ」と思ったら、即つくることを考え、既存のパーツを組み合わせで工夫してみますね。



石材を多用した重厚な雰囲気のと風エクステリア・プラン。大型の天然石を敷き込み、オリジナルの立水栓をつくるなど、こだわりの随所に見られます。



塀と土間のパーツで土台をつくり、つくばいと水栓をつけた、オリジナルのタイル張り立水栓。